

事業名	雌牛改良促進事業(肉用牛広域後代検定推進事業、育種牛群整備事業)		
予算区分	県単 (17,604千円、令達)	担当	飼養技術研究室 生産性向上研究グループ 改良技術研究室 繁殖システム研究グループ 育種改良研究グループ
事業期間	継続 (平成元年度～)	協力関係	県下5家畜保健衛生所
事業目的	<p>優秀な種雄牛を造成するため、計画的な交配により優良繁殖雌牛を生産・保留するとともに、岡山系雌牛の系統の固定化を進めるため系統牛を保留し、もって和牛改良に資する。</p> <p>また、候補種雄牛の産肉能力検定に必要な後代検定牛を生産する。加えて、フィールドにおいて生産効率の高い農家を育成するため、優良繁殖雌牛から採取した受精卵を県下の生産者へ供給することにより、雌牛の改良増殖に資する。</p>		
<p>○ 本年度事業のねらい</p> <p>肉用牛の改良を計画的に行い、産肉能力に優れた種牛の確保と、生産効率の高い農家を育成し、肉用牛の生産振興を図る。</p> <p>事業1 優良繁殖雌牛の生産・保留 (事業の内容) 研究所において育種能力の優れた牛群を造成するとともに、岡山系雌牛系統の固定化を推進し、候補種雄牛、後代検定牛及び供卵牛の基礎となる繁殖雌牛を生産するため、育種価の高い(脂肪交雑 A7%以上、期待育種価、母育種価を含む)雌牛への人工授精及び該当牛から採取した受精卵を低育種価牛へ移植する。</p> <p>事業2 候補種雄牛の後代検定牛の生産 (事業の内容) 効率的に後代検定子牛の生産を行うため、研究所繫留の繁殖雌牛に候補種雄牛を交配する。</p> <p>事業3 直接検定牛の生産 (事業の内容) 育種価の高い(脂肪交雑 A7%以上、期待育種価、母育種価を含む)雌牛からの受精卵を移植等により直接検定牛の生産を行う。</p> <p>事業4 岡山県下における優良繁殖雌牛群の造成(広域後代検定推進事業) (事業の内容) 県下において生産効率の高い農家を育成するため、フィールドで育種価の高い(脂肪交雑 A7%以上、期待育種価、母育種価を含む)雌牛から受精卵を採取し、事業1に供するとともに県下生産者へ供給する。</p> <p>事業5 広域後代検定推進事業により生産された産子の産子調査及び保留促進 (事業の内容) 本事業により生産された産子について、雌産子は県内保留、雄産子は候補種雄牛としての選抜を促進するため、県民局、家保及び全農岡山県本部等と連帯を図りながら産子調査を実施する。</p> <p>○ 前年度までの成果</p> <p>事業1 優良繁殖雌牛として6頭を生産・保留し、そのうち岡山系雌牛として保留したのは2頭であった。</p> <p>(1) 保留優良繁殖雌牛(北仁、第1花国、千代桜) 4頭 (北仁×みさきかつさくら、第1花国×第11あきふじ、千代桜×さわしげ、千代桜×ひろふじ)</p> <p>(2) 岡山系繁殖雌牛(北盛栄) 2頭 (北盛栄×あけぼのふじ11、北盛栄×みよし9)</p> <p>事業2 後代検定牛として33頭を生産した。 (内訳:新岡光81 4頭、新百合5頭、花千代9頭、福中平9 7頭、花矢大河5頭、美恵茂3頭)</p> <p>事業3 直接検定牛として2頭生産した。 (内訳:第1花国産子、新初英産子)</p> <p>事業4 研究所繫留の雌牛32頭に対して74回の採卵を実施し、正常卵数497個(1頭当たり6.7個)を採取した。また、フィールドにおいて10頭(1頭1回)の農家採卵を実施し、139個の正常卵を採取した。回収した正常卵の移植成績は、新鮮卵移植で受胎率57.1%(116/203)、ダイレクト法凍結卵で受胎率42.6%(29/68)、ガラス化法凍結卵で受胎率41.3%(59/143)であった(1月末時点)。</p> <p>事業5 これまでに供用した供卵牛66頭から作出された受精卵産子の保留状況調査を実施した結果、196頭が繁殖雌牛として農家で飼養されていた(H27.4時点)。また、現在繫養中の種雄牛17頭のうち、8頭が当事業の受精卵産子であり、H27年度は研究所において2頭を候補種雄牛として生産した。</p>			